

CD 試聴会・訪問記掲載

上新電機オーディオ試聴会 (2016.6.26)

—DS-DAC-10R の試聴—

1. はじめに

上新電機日本橋 1 ばん館で開催された KORG の DS-DAC-10R の試聴会に行ってきました。

[DS-DAC-10R](#) は、レコード・プレーヤーを直接接続できるフォノ入力端子を装備し、レコードを DSD による高音質でそのままハイRezデータ化し、AudioGate 上で曲を管理することができ、また、入力端子は LINE レベル入力にも対応しています。

2. 使用機器



DAC : KORG DS-DAC-10R
アンプ : KORG 真空管式試作品
スピーカー : B&W804D3
アナログプレイヤー : DENON

試作アンプ

DS-DAC-10R



当日のセッティング

3. 試聴会の進行

最初に KORG の MR-1000 で録音した 5.6MHz DSD 音源、ついで配信先からダウンロードした FLAC の 192KHz24bit 音源の再生があり、FLAC の 192KHz24bit 音源をリアルタイムで 5.6MHzDSD に変換する再生も行われました。いずれもクラシックではないので音質の絶対的な評価はできませんでしたが、真空管サウンドらしい音がしていました。

た。

実際にシュアーM44 から取り込んだカーペンターズの音のモニターや 5.6MHzDSD の録音デモが行われ、表示画面や曲を区切るマーキングや、フェードイン、フェードアウトの機能の説明がありました。

DS-DAC-10R のイコライザーカーブは、RIAA の他、コロンビア、NAB、Decca などが準備されているとのこと。また、録音はイコライジングしないで録音することもでき、再生時にイコライジングすることもできるので、イコライジングしない音や、録音、再生で重複イコライジングした音も聴かせてくれました。入力は MM ポジションだけなので、MC カートリッジにはトランスが必要です。

この後、映画のサウンドトラックのマスターテープを DSD 化した音源がかけられた後、アンプの説明がありました。プリ段にはノリタケと共同開発した新しいタイプの双 3 極真空管が使用され、パワー段は既存のアイスパワーを使用した試作機とのこと。この真空管は実物が回覧されましたが、パンフレットの写真のとおり、蛍光表示管をオーディオ仕様にしたもので、使用電力が極端に小さくて済み、きれいな 3 極管特性を示すとのこと。この開発経過は次のサイトで読むことができます。

http://www.stereosound.co.jp/column/av_trends/article/2016/06/27/47352.html



さらに Take5 とホテルカリフォルニアがかかった後、質疑応答に入りましたが、参加者から DS-DAC-10R と新方式の真空管について熱心な質問がありました。なお、Take5 では参加者からコロンビアカーブにしてほしいとの要望があり、カーブが替えられましたが、こちらの方がじっくりするような印象でした。

イコライジングはデジタル化してから行うので、どのようなフォーマットに変換してからイコライジングするのか聞いてみたところ、5.6MHz64bit のマルチビットに変換して行うとのことでした。[河口無線の試聴会](#)で聴いた M2Tech の Joplin MK2 のイコライジングは 384KHz32 bit のフォーマットで行うとのことでしたので、このあたりは KORG の方が拘っているようです。

また、AudioGate4 の編集機能はフォーマット変換の EXPOT 機能はありますが、TASACAM Hi-Res Editor のような切り貼りなどはできないとのことでした。

4. まとめ

音質についてはクラシックの再生がなかったので、はっきりした感想を述べられませんが、試作アンプとの組み合わせで全体として真空管サウンドのような印象を受けました。イコライジングしないで録音し、再生時にいろいろカーブを替えて再生してみるという機能は面白いと感じました。また、新方式の真空管については今後の展開に興味があります。

以上